

このホームページに出会ってくれて、本当にありがとう。あなたの学力向上を願わずにはられません。

いつもこのホームページを活用してくれて、どうもありがとう。このホームページ（HP）は、塾に通っていない、またはおうちの近くに塾がない地域の中学生の役に、少しでも立てたらな、と思って作ったページです。と言うのは、私の塾に来れる子とは、塾の近くの子供たちだけです。日本全国どこか、地域の中のほんの一握りです。でもHPを作れば、全国どこに住んでいても、まるで私の塾に通っている感覚になって勉強に取り組めるのではないか。こう考えたからです。

なお、私の塾の時間帯は、午後6時～7時半のコマと、7時40分～9時10分のコマがあります。ぜひあなたも、どちらかのコマを選んで、机に向かってみてください。そうすればあなたも、私の大切な塾生の一員です。

正直に言います。「自分のノウハウを公開するのって、もったいないな…」という気持ち、確かにありました。

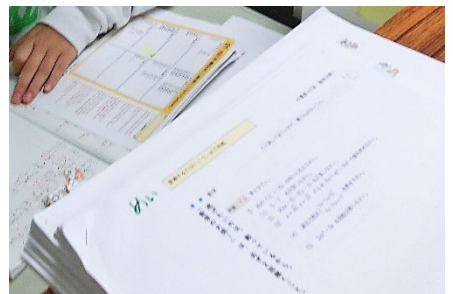
このHPのプリントは、10年近く頑張って作った、いわば私の人生の一部です。ですので、塾の子供たちだけに、このプリントを使うことは、本来自然なことです。そして私がそうしても、「小さい人間だな」と思う人は、きつくないでしょう。

でも、40才を過ぎた頃でしょうか。ふと思ったのです。全国の塾長先生たちが作ったプリントや知恵、そして工夫を一か所に集めて、それを全国にいる子供たちにガンガン配ったら、一体どうなるのだろうか。今を生きる子供たちの学力は、どれだけ伸びるのだろうか。こう思うと、ワクワクしてきたのです。それと同時に思ったのです。

「誰かがやってくれる」のを永遠に待ち続け、この思いを胸の内にしまっておくだけじゃ、おそらく今後も何も起こらないだろうと。「それならいっそ自分が行動すべきだよな」と。人に何かを期待するだけで、自分は何もしない。「これってもったいない人生だな！」と。これが私の夢であり、本気で叶えたいと思っています。夢とは、自分で考え作るものなのです。

こうした理由から、思い切って、ホームページを作って公開してみることにしました。ただまだ「英文法」と「歴史」だけです。少なくとも申し訳ないですが、少しでも力になれば嬉しいです。今後は、英語の長文プリントも作っていきたいと思っています。どうか楽しみに待っていてください。そして40才で見つかった私の新たな夢、どうか応援してください。

さて、私は「どこかの塾の先生」です。私の塾がどんな塾で、生徒たちが実際、どんなふうに勉強しているのかを、少し以下で紹介합니다。この雰囲気はどうか、感じてください。そして同じ気持ちになって、あなたもおうちで勉強してみてください。

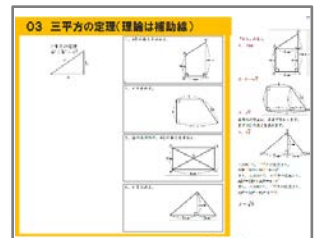


勉強で大切なことは、集中することです。分からない問題？それはパス。「できそうだな」と思うところ（問題集の基礎問題などに絞っても可）だけをガンガン解くのです。今学校で学んでいる単元に絞ると良いです。テスト対策にもなります。成績が伸びない子とは、「できないところに」こだわって、頑張ればできるところを甘く見て覚えな。そんな特徴があります。ですので、「できないところ」を「できるように」したいのか、それとも成績を上げたか。まずはどっちなのかを明確に決めましょう。

私の塾生は、単元ごとの束を、1枚ずつ学びます。数学の計算を1枚やって、次は理科の電流を1枚やって…のようにです。勉強の基本は、「広く浅く」をくり返すことです。いわゆる「ペンキ作戦」です。コツは、3科目×10分から始めることです。



塾生たちの目は、真剣そのものです。体験学習に来た子でさえ、気迫あふれる表情を見せてくれます。その理由は、「少し頑張ればできるようになりそうなところを自分で見つけ、乗り越える」からです。「自分で見つける」ことがポイントです。ですので私は、「今日はこれをやりなさい。」とは言いません。「少し頑張ればできそうなところを見つかる」方法は、教材の中から探し出すのです。ゼロから探すではありません。



あなたも、自分が持っている教材から、「少し頑張ればできそうなページ」を見つけ、そこを頑張ってください。「自分の課題」は自分で見つけます。

勉強は、「広く浅く」とすると良いです。それには理由があります。

「暗記が苦手で、特に歴史が苦手なんです。」という塾生がいます。ここで私はこの子に、何て言うと思いますか。「毎日コツコツやりなさいって言うんじゃないですか？」と思われるよね。良いですね。実はさらに…

私はこうも言います。「毎日10分間、漢字練習をやりなさい。」と。さらに「毎日10分間、歴史の教科書を読みなさい」と。歴史が苦手な子の多くは、漢字が苦手です。廃藩置県、武家諸法度、公事方御定書…と、歴史には漢字がたくさん出てきます。そのため、「読めない漢字がある」せいで、内容が頭に入っていないのです。ですので、もしあなたも、問題集を頑張っているのに伸び悩んでいるならば、学校の教科書を読んでください。学校の教科書は、ふりがながふってあるので、お勧めです。

私も20代のころ、社会や理科が苦手な塾生に対して思っていました。「小学校でもやってきたのに、なんで電磁石や近郊農業を、初めて聞きました！」と言うのだろうと。

学校の授業で先生は言ってくれます。「これは近郊農業だから～」と。ですが授業で数回聞いても、1年後、2年後には、すっかり忘れてしまいます。人間ですから…。ここで、疑問に思いますよね。「でも宿題とかプリントで、電磁石や近郊農業って、何度も出てきますよ。」と。たしかに。問題は、「読めない」ことです。確かに「文字」は、何度も目にします。でも読めないので、それは記号と同じです。普段文字を読む時、私たちは、無意識に心の中で音読をしています。音読によって、耳からも情報を取り入れています。いわゆる五感のうち2つ(目と耳)を使っている状態となり、記憶を定着させています。ということは、漢字が読めないということは、音読ができていない(耳が活躍していない)。ということになります。結果、漢字の多い理科と歴史が苦手になるのです。だからこそ、ふりがながふってある学校の教科書を読むことは、最良の学習です。

頑張っているのに、なかなか成果につながらない。その原因の多くは、「接触回数」が少ないからです。

今回のように、「歴史が苦手」＝「漢字が原因」というお話は、一例です。本質は、顔を合わせる(触れている)回数が少ないことで、「なかなか馴染めなくてなんか苦手」、というところにあります。接触回数が少ないから、実は苦手を感じるんだ。というところが、苦手を作る本質なのです。

このことは、少なからず勉強を頑張りたいと思っている子供たち(塾生)と20年以上過ごすことで分かった、私なりの答えです。あなたにもおそらく、会ったこともない私の言うことに、「本当かな?」と思う気持ちもあるでしょう。ですが、「教科書を読む」という勉強は、無駄にはなりませんよね。だから少なくとも、教科書のことは信じてあげてください。あなたには、たくさん事を広く学んでほしいのです。そのためにも、「たくさん読んで」ほしいんだ。と思っています。

本当のところ、「学力が上がらない原因はここ」なんて、誰にも言えないのです。

「たんに勉強不足だよ。勉強時間を増やさない」とか、「やる気がどうの」「覚える気がどうの」というのは基本にあって、その上で原因を探ることが大切ですよ。私は20年以上、塾という現場で子供たちを見ていますが、「これだ!」という根本的な原因は、まだ分かりません。ですので、「成績が上がらない原因なんて分かりっこない。だから広く浅く勉強して、いつの間にかその原因を解決していく」、という考え方が、私なりの結論です。広く浅く勉強することで、「紫式部を知ってから、古文が好きになった。」「何度もくり返し読んだから、いつの間にか関数ができるようになった。」塾生は言います。

テクニックこそ、学力です。

3→4→5…と進んでいる人に、「こうすると5を、完璧に身に付けることができるよ」と言うのがテクニックです。ゼロの人に「これが5を覚えるコツだよ。」と言っても、時期ではないから身に付きません。中1理科の「地層」で、「古い財布、空き地でしなびた。」という覚え方があります。覚えやすいのですが、古生代、三葉虫、フズリナ…と、語句が分かっていないと、効果は半減します。

このようにテクニックとは、ある一定の知識を覚えてからの有効打なのです。ゆえにテクニックとは、人間力というか総合力なのです。テクニックとは、できることが、さらにできるようになるためのものなのです。ですので、いきなりテクニックを覚えるのではなく、「あれも、これも、それも…」と、まずはがむしゃらに、基本となる事をたくさん覚えていきましょう。単発のテクニックとは、ただの暗記になります。

あなたは今、勉強の調子はどうですか。「結果よりも、途中経過を評価して!」お母さんにこう言えれば、ぜひ…。

「何この点数?ちゃんと勉強していたの?」急に言われるから腹が立つ。そんなことはありませんか。「突然」ノーモーションで怒られるから腹が立つのですよね。「敵はこんなところにいたのか〜!!」とならないように、ぜひこう言ってください。「テスト結果だけを見て、ワンステップで怒らないで。できれば途中経過を見てほしいな」と。

様々な基本理論(知識)がつながって…ピン!とひらめく。これを、「理論(知識)の連鎖」と言います。

基本をたくさん身に付けると、いいことがあります。理論(すでに得ている知識)ベースの「勘」が鋭くなります。

勉強がある程度進んだ時、突然浮かんでくる「ひらめいた!」という感覚、あなたも経験したことありませんか。実はあれは、理論(知識)をベースにした感覚なのです。つまり、AとBがあるからこそ生まれたCなのです。

塾生は言います。「公式忘れちゃいました。でも、なんとなくこうかなって思って…そしたらできました」と。「どこかに補助線引けば、なんか行けそうな気がしたんです」と。もしあなたが、数学を得意に、いえ、せめて苦手からの脱出を望むならば、自分に必要な理論(知識)を探して、見つけてください。どうやって? 学校の教科書を読みまくってください。

「直感」とは、すでにある理論たちが絡み合って生まれる「ひらめき」のことです。ある程度理論がそろった時、あなたは必ず、こう思う日が来ます。「オレって(私って)やるじゃん!」「ぼくって(私って)すごかったんだ」と。

「やったぜ感」は、大人になっても生き残ります。そして数学ができる人は「勘が鋭い」。それには理由があつて…私たち大人は、自分の直感と、目の前にある理論(知識)を照らし合わせながら仕事を考えています。そしてこの2つが一致しないとどうなるか…。「もやもや」します。結果、もう一度調べるなど、慎重に仕事を進めることができます。もし「もやもや」がないとどうなるか…。即行動することになります。結果、失敗する危険があります。ですので、数学ができる人とは、慎重な人です。なぜ数学? 数学とは、英語と国語よりも、積み上げた理論を、常に必要とする科目だからです。

数学を頑張ることで味わえる「やったぜ感」…。勉強のやる気につながりそうだと思いませんか。

勉強が苦手な子とは、イコール数学が苦手…という場合が多いですが、私はあえて言いたいです。「勉強が苦手な人ほど、数学をやれ!」と。「そうか、ここに補助線を引けば解けるかも…」という「直感」。突然湧いてくる「ひらめき」。すべては、積み上げ式の数学だからこそ、鍛えることができる能力です。そしてそのひらめき力は、あなたの永遠のスキルです。

初めて学ぶ単元で、「なるほど」と思える人は、それまでの理論とつなげて考えている人です。

中3の冬、三平方の定理を学んでいる時、「この問題は補助線を引くと、なんと…」と、先生にテクニックを教わっても、中2の基本がない人は、「へえ…」と思って終わりです。一方、理論が順番に積み上がっている人は、「そうか、中2の同位角・錯角でやったことを応用するのか…」と、ピンとくるのです。

実はこの「理論(知識)の連鎖」、他の科目にも通用します。歴史の勉強の基本は…

歴史の教科書をざっと読む。その後に重要語句を覚える。遠回りに見えるけど、これが歴史の勉強法です。なぜかって? 教科書をざっと読むのは、時代の様子を知るためです。江戸時代の単元を、1時間で読み通してから語句を覚えると…

「そうか、江戸時代に打ちこわしが増えたのは、雨が少なく(ききん)お米が取れなかったからか…」とピンときます。

「江戸時代の農民は、領主に年貢の軽減を求めて打ちこわしをした。」と、単発で覚えようとするから辛いのです。これが丸暗記です。楽にやったことは、簡単に忘れる。あなたもきっとこれを、何度も経験してきたのではありませんか。楽にできることを難しくやれとは言いません。でも少なくとも、丁寧に頑張ってほしいのです。

志望校は、偏差値で決めないでください。

志望校は、偏差値の「上下」で見ないほうがいいです。「水平」で見ないようにします。受かる前提で各校の特色を見て考えるのです。学校の特色を見るときは、「ここに入ったら、こう成長できるな」という軸で判断します。受かりそうなところで決めると、どうしても人は下を見る。それは、自分を下に見ているのと同じです。まだ時間があるならば、何でもできる前提で学校を選ぶようにします。だってそうでしょう。入学している人がいる限り、可能性はゼロではないからです。

「早稲田と慶応では、早稲田の校風がいいな～」のように、クールに考えてください。そしてどうしても届かなかつたら、いよいよ下で、早稲田っぽい校風の学校を選ぶのです。「この成績では、ここは厳しいから…」は最後の最後です。いいですか、下げようかな…は最後!ぎりぎりまで粘ろう。

勉強をすると、大人に近づく気がして不安になる。まだ子供でいたいのに…。

あなたたち子供にとって、大人になることって、不安ですよ。怖い気持ちもあると思います。私も昔は子供でした。だけどいざ大人になってみたら、「どうってことね～」と思っています。だからあなたには、大人になった時に、「子供のころから頑張っておけば良かった。本当に残念だ…。これから頑張れそうなのに。今なら本当にきつと頑張る!」と、後悔だけはしてほしくありません。だから、将来のあなたのためにも、今を頑張ってください。勉強で困ったら、私に連絡をしてください。きつとあなたの力になります。